



# 佐々木機工株式会社

電話：0143-47-5428

F A X：0143-43-5428 U R L：<http://www.sasaki-kikoh.co.jp/>

## 信頼される企業市民であるために

### はじめに ～ 会社（事業）の概要

弊社は、1962年4月、機工商社として創業以来、「ビジネスを通してお客様と喜びを」を経営理念として活動しております。事業内容としては、製品用途開発事業、特殊洗浄事業、ものづくりコーディネートを3本柱にし、地域社会への貢献を目指しております。

### 認証取得したきっかけと経緯

地球温暖化が叫ばれる中、地球環境に配慮した企業経営が一企業としての社会に対する責務と考え、多くの中小企業等が容易に取り組めるHES（ステップ2）の取得を考えました。

### 取組状況

- 1 省エネルギー対策（節電・節水）～ 事務所照明の昼休み中の消灯の徹底、エアコン等のスイッチ切の徹底など
- 2 ペーパーレス対策～ 裏紙使用の徹底、書類のデジタル化の推進
- 3 エコ商品購入促進～ エコ事務用品の購入、エコ商品の販売促進
- 4 自社事務所周辺の清掃活動奉仕～ 資源ゴミの回収、リサイクル

### 成果と今後の課題

省エネルギー対策としての節電、節水については目標の完全達成には至っていないが、少しずつ節約につながっております。ペーパーレス対策についてもA4換算の使用量も減ってきております。只、数値化が可能なこれらの項目については何れ限界が来ると思われ、他の取組項目を設定して活動したいと思っております。しかし、確実に社員個々の節約に対する意識は向上しており、社内では勿論、家庭に於いての意識付けにも繋がればと思います。

### おわりに

今後は事務所の照明器具などの備品のエコ化及びエコ商品の販売の強化に努めたいと思います。



事務所周辺の清掃活動奉仕（本社・室蘭）



事務所周辺の清掃活動奉仕（苫小牧）



エコアクション21  
認証・登録番号 0003075

# スエヒロ事務機株式会社

電話：0138-30-6171 担当：森 博人， 楡井 彩子

F A X：0138-30-6178 U R L：<http://www.suehiro888.jp/>

## エコアクション21の社内取組

### はじめに ～ 会社（事業）の概要

OA機器及びシステム商品、事務用品文具等の販売営業

【経営理念】お客様の視点に(CS)と社員(ES)の満足向上を追求し地域社会とともに、社員が誇りを持てる地場業の基礎を築く。

【経営ビジョン】伝統と改革を両立させ、新スエヒロスタイル作りで地域No.1のOAソリューションディーラーを目指す。

### 認証取得したきっかけと経緯

当社は、リコー北海道(株)の直系子会社であります。リコー北海道(株)はISO14001認証企業であるため、リコーグループの当社もISO14001を取得しなければならないところですが、当社は中小企業であり、予算的にもISO14001だと”荷が重い”と考え、それに準ずるものとしてエコアクション21取得へ取り組むことになりました。

### 取組状況

- 1 二酸化炭素排出量の削減
- 2 廃棄物排出量の削減
- 3 水使用量の削減
- 4 環境対応機の販売
- 5 コピー用紙投入量の削減
- 6 地域美化運動の推進

～ 環境と調和を図り、地域に愛され、信頼される企業を目指しています ～

### 成果と今後の課題

2008年度の結果をまとめると、電気使用量、水道使用量に関しては削減達成出来ました。そのほかは、諸事情により削減出来ず逆の形で終わりました。エコアクション21では、削減できなかったとしても、正直に結果を残し、どうやって削減できるかを考えて実行するプロセスを大切にしております。この結果を踏まえ2009年度は更なる努力で取り組んで行かなければならないところではありますが、2009年4月に事務所を移転、新たな社屋でまた1からのデータ収集というかたちになりました。取組事項の変更などもあるため、また新たな展開に取り組んで行かなければなりません。

### おわりに

環境マネジメントシステムの目的は、二酸化炭素の排出量削減ではありますが、会社としては、お金と時間をかけて環境経営に取り組むには、随分と悩まれる点だと思われます。しかし、各項目に取り組んだ結果、電気料金・燃料代の削減。またゴミを廃棄するにもお金がかかる時代です。このような費用やコストが実際に削減されますので、会社にとっても大きなコスト削減に繋がります。大切なのは、事業経営に負担をかけず、かつ環境により取組を推進できることです。認証取得を考えられる際は、経営にとっても、負担ばかりではないということをご理解いただければと思います。

最後に、エコアクション21の活動を通じて、会社全体がひとつの目標に向かって、結束することができました。そのことが、いちばんの収穫でした。



1F スエヒロ事務機  
2F リコーテクノシステムズリコー北海道  
”3社一体でお客をサポートいたします”



細かく種類を分けて廃棄しております。  
分別サンプルを表示することで、ルールが社内ですぐ上手く運用できるよう工夫しています。



リコーグループでは、環境に対する意識向上を目指し、社内及び周辺の緑化と清掃を実施し、地域美化運動を推進しています。





# 十勝事務機販売株式会社

電話：0155-38-2511 担当：エコアクション 21 推進事務局

URL：<http://10win.jp/>

## エコアクション21への取組による環境経営の推進

### はじめに ～ 会社（事業）の概要

当社は、オフィスへの事務機器、通信機器、情報機器の最適提案と販売、情報システム・ネットワークの企画、構築、運用サポート・サービスなどの提供などを事業の柱とし、十勝支庁管内エリアを中心として官公庁・民間企業のオフィスで働く皆様のお役に立てる企業を目指し、昭和48年より企業活動を行っています。

### 認証取得したきっかけと経緯

当社の主力商品であるオフィス用事務機器も近年は省エネルギー化が進み、環境配慮型商品が増えています。お客様へそれらの商品を勧めるに当たって、自社でも積極的に環境へ配慮した企業活動を実践することが大切と感じ、数年前から取組を継続していました。エコアクション21という認証制度があることを知り、2008年春から認証取得に向けての取組をスタートし、2008年10月に認証取得しました。

### 取組状況

次の8項目について具体的な目標と活動計画を定め、継続的な活動を行っています。

- 1 電気使用量の削減……………2%削減
- 2 廃棄物の削減……………廃棄物量2%削減、廃棄物再生使用率4%向上
- 3 燃料使用量の削減……………ガソリン、軽油使用量2%削減、灯油2%削減
- 4 省資源・グリーン購入の促進……………紙使用量2%削減、グリーン購入・エコマーク商品の社内使用率70%以上
- 5 環境負荷低減に資する製品販売への取組……………環境配慮型商品提案の推進
- 6 水資源使用量の削減……………2%削減
- 7 環境保全活動の取組……………社員教育、ボランティア参加、外部への情報提供など
- 8 二酸化炭素排出量の削減……………2%削減

(各削減目標は対2006年度実績比)

これらの活動について、推進担当者のみならず全社員が当事者意識を持って参画できるよう様々な工夫をしています。

### 成果と今後の課題

【成果】それぞれの環境目標に対して有形無形の効果が得られました。特に企業活動における廃棄物の削減は大きな成果を上げることが出来ました。具体的には全社員が当番制で廃棄物測定を行ったり、細かな分別マニュアルを整備し分別を行ったことにより再資源化率が大幅に向上し、結果として廃棄物量の削減に留まらず廃棄料金の大幅削減に繋がりました。一方、エコドライブ講習の実施や、道の主催する「エコドライバーズ宣言」に参加、車輻にステッカーを貼り、車輻毎の燃費を可視化したこと等により車輻燃料を10%削減出来ました。また外部主催の「河川敷清掃活動」や「植樹活動」などにも積極的に参加し社員啓蒙と地域貢献にも役立つことが出来ました。

【今後の課題】電気使用量の削減は目標に届かず更なる工夫が必要です。また推進担当者以外の社員の意識・行動に多少の温度差があり、全社員が一致団結して取り組む風土を醸成していきたいです。

### おわりに

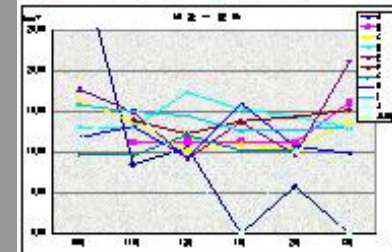
エコアクション21認証取得への取組により、社員とその家族も含めて環境保全に対する意識・行動に変化が起きたことは大変喜ばしいことです。

当社が本社を置く帯広市は環境モデル都市に指定されており、そこで企業活動を行う一員として今後も環境経営を推進することにより地域貢献に繋がれば幸いです。



社屋正面写真

車輻	11月	12月	1月	2月	3月
1	14.0	12.5	11.0	11.5	12.0
2	12.5	11.0	10.5	11.0	11.5
3	11.0	10.5	10.0	10.5	11.0
4	10.5	10.0	9.5	10.0	10.5
5	9.5	9.0	8.5	9.0	9.5
6	8.5	8.0	7.5	8.0	8.5
7	7.5	7.0	6.5	7.0	7.5
8	6.5	6.0	5.5	6.0	6.5
9	5.5	5.0	4.5	5.0	5.5
10	4.5	4.0	3.5	4.0	4.5
11	3.5	3.0	2.5	3.0	3.5
12	2.5	2.0	1.5	2.0	2.5
13	1.5	1.0	0.5	1.0	1.5
14	0.5	0.0	-0.5	0.0	0.5
15	-0.5	-1.0	-1.5	-1.0	-0.5
16	-1.0	-1.5	-2.0	-1.5	-1.0
17	-1.5	-2.0	-2.5	-2.0	-1.5
18	-2.0	-2.5	-3.0	-2.5	-2.0
19	-2.5	-3.0	-3.5	-3.0	-2.5
20	-3.0	-3.5	-4.0	-3.5	-3.0
21	-3.5	-4.0	-4.5	-4.0	-3.5
22	-4.0	-4.5	-5.0	-4.5	-4.0
23	-4.5	-5.0	-5.5	-5.0	-4.5
24	-5.0	-5.5	-6.0	-5.5	-5.0
25	-5.5	-6.0	-6.5	-6.0	-5.5
26	-6.0	-6.5	-7.0	-6.5	-6.0
27	-6.5	-7.0	-7.5	-7.0	-6.5
28	-7.0	-7.5	-8.0	-7.5	-7.0
29	-7.5	-8.0	-8.5	-8.0	-7.5
30	-8.0	-8.5	-9.0	-8.5	-8.0
31	-8.5	-9.0	-9.5	-9.0	-8.5
32	-9.0	-9.5	-10.0	-9.5	-9.0
33	-9.5	-10.0	-10.5	-10.0	-9.5
34	-10.0	-10.5	-11.0	-10.5	-10.0
35	-10.5	-11.0	-11.5	-11.0	-10.5
36	-11.0	-11.5	-12.0	-11.5	-11.0
37	-11.5	-12.0	-12.5	-12.0	-11.5
38	-12.0	-12.5	-13.0	-12.5	-12.0
39	-12.5	-13.0	-13.5	-13.0	-12.5
40	-13.0	-13.5	-14.0	-13.5	-13.0
41	-13.5	-14.0	-14.5	-14.0	-13.5
42	-14.0	-14.5	-15.0	-14.5	-14.0
43	-14.5	-15.0	-15.5	-15.0	-14.5
44	-15.0	-15.5	-16.0	-15.5	-15.0
45	-15.5	-16.0	-16.5	-16.0	-15.5
46	-16.0	-16.5	-17.0	-16.5	-16.0
47	-16.5	-17.0	-17.5	-17.0	-16.5
48	-17.0	-17.5	-18.0	-17.5	-17.0
49	-17.5	-18.0	-18.5	-18.0	-17.5
50	-18.0	-18.5	-19.0	-18.5	-18.0
51	-18.5	-19.0	-19.5	-19.0	-18.5
52	-19.0	-19.5	-20.0	-19.5	-19.0
53	-19.5	-20.0	-20.5	-20.0	-19.5
54	-20.0	-20.5	-21.0	-20.5	-20.0
55	-20.5	-21.0	-21.5	-21.0	-20.5
56	-21.0	-21.5	-22.0	-21.5	-21.0
57	-21.5	-22.0	-22.5	-22.0	-21.5
58	-22.0	-22.5	-23.0	-22.5	-22.0
59	-22.5	-23.0	-23.5	-23.0	-22.5
60	-23.0	-23.5	-24.0	-23.5	-23.0
61	-23.5	-24.0	-24.5	-24.0	-23.5
62	-24.0	-24.5	-25.0	-24.5	-24.0
63	-24.5	-25.0	-25.5	-25.0	-24.5
64	-25.0	-25.5	-26.0	-25.5	-25.0
65	-25.5	-26.0	-26.5	-26.0	-25.5
66	-26.0	-26.5	-27.0	-26.5	-26.0
67	-26.5	-27.0	-27.5	-27.0	-26.5
68	-27.0	-27.5	-28.0	-27.5	-27.0
69	-27.5	-28.0	-28.5	-28.0	-27.5
70	-28.0	-28.5	-29.0	-28.5	-28.0
71	-28.5	-29.0	-29.5	-29.0	-28.5
72	-29.0	-29.5	-30.0	-29.5	-29.0
73	-29.5	-30.0	-30.5	-30.0	-29.5
74	-30.0	-30.5	-31.0	-30.5	-30.0
75	-30.5	-31.0	-31.5	-31.0	-30.5
76	-31.0	-31.5	-32.0	-31.5	-31.0
77	-31.5	-32.0	-32.5	-32.0	-31.5
78	-32.0	-32.5	-33.0	-32.5	-32.0
79	-32.5	-33.0	-33.5	-33.0	-32.5
80	-33.0	-33.5	-34.0	-33.5	-33.0
81	-33.5	-34.0	-34.5	-34.0	-33.5
82	-34.0	-34.5	-35.0	-34.5	-34.0
83	-34.5	-35.0	-35.5	-35.0	-34.5
84	-35.0	-35.5	-36.0	-35.5	-35.0
85	-35.5	-36.0	-36.5	-36.0	-35.5
86	-36.0	-36.5	-37.0	-36.5	-36.0
87	-36.5	-37.0	-37.5	-37.0	-36.5
88	-37.0	-37.5	-38.0	-37.5	-37.0
89	-37.5	-38.0	-38.5	-38.0	-37.5
90	-38.0	-38.5	-39.0	-38.5	-38.0
91	-38.5	-39.0	-39.5	-39.0	-38.5
92	-39.0	-39.5	-40.0	-39.5	-39.0
93	-39.5	-40.0	-40.5	-40.0	-39.5
94	-40.0	-40.5	-41.0	-40.5	-40.0
95	-40.5	-41.0	-41.5	-41.0	-40.5
96	-41.0	-41.5	-42.0	-41.5	-41.0
97	-41.5	-42.0	-42.5	-42.0	-41.5
98	-42.0	-42.5	-43.0	-42.5	-42.0
99	-42.5	-43.0	-43.5	-43.0	-42.5
100	-43.0	-43.5	-44.0	-43.5	-43.0



エコドライブ推進による車輻燃費の可視化グラフ（社内掲示）



社員と家族による植樹活動への参加（十勝千年の森）



エコアクション21

# 株式会社ホクラミ

## エコアクション 21 への取組

電話：011-512-3378 担当：(経理・総務・ITアクション) 長尾 知穂

F A X：011-512-4289 E-mail：[hokurami@h-ls.com](mailto:hokurami@h-ls.com)

U R L：<http://www.h-ls.com/>

弊社 H P に『環境活動レポート』を掲載しています

### はじめに ～ 会社(事業)の概要

1982年創業、今年で28年目のラミネートフィルム販売、ラミネート加工の専門業者です。近年はインクジェットプリンター、カラーレーザープリンターなどを導入し、デジタルプリント事業を拡大。メニュー、ポスター、POP、名刺、携帯クリーナー...様々な販促物を製作しています。プリントからラミネート加工まで、代表含めスタッフ13名でトータルなサービスを提供しています。

### 認証取得したきっかけと経緯

弊社は元々女性スタッフが多かったこともあり、廃棄物処理やリサイクルについて大きな関心を寄せてきました。事業活動のなかで毎日行っている廃棄物の分別やエネルギー保全の活動が、どのくらい環境に対して役立っているのか？効果はあるのか？そんな疑問が環境マネジメントシステムへと目を向けさせました。2007年7月から約11カ月間にわたる準備期間と審査を経て、2008年5月、エコアクション21に登録しました。

### 取組状況

二酸化炭素排出量削減のために・・・電力、ガソリン、ガス、灯油の使用量見直しなど

例) 作業用機械、照明器具等の節電、営業車の半タン給油励行、暖房温度20℃設定

リサイクルの推進、資源保全のために・・・ダンボール廃棄量、水道使用量の抑制など

例) 一般ゴミ・紙ゴミ分別の徹底、節水、昼食時の「マイ箸」利用、環境配慮商品の購入

特に力を入れていること・・・ラミネートフィルムを固形燃料へ

ラミネート加工業務で廃棄されるフィルム端材を廃プラスチックとして回収、固形燃料を作る材料の一部として利用。出来上がった燃料は石炭の代用品として工場などで使用。

### 成果と今後の課題

取組結果 (2008年度)

電力使用量 4.3%減、ガス使用量 7.7%減、ガソリン使用量 9.7%減、灯油使用量 2.7%増

二酸化炭素排出量 3.6%減 (総量ベース) 19.9%増 (原単位ベース / 売上高100万円当り)

今後の課題

総量では目標が達成できているものの原単位では未達成なので、エコアクション21登録より5年間の平均値を原単位とするなど、数値の設定方法を一考する必要あり。

### おわりに

エコアクション21に登録してから各スタッフの環境に対する意識は以前より高まったように感じます。反面、システムを維持していく難しさや、数値削減以外の次の段階としてどのようなことすべきかなど模索も続いています。弊社のような小さな会社ができることは限られていますが、身の丈に合った日々の活動を通して、少しでも環境保全に貢献できるよう取り組んでいく所存です。



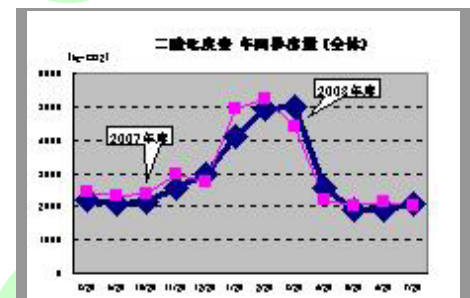
【ラミネート加工の様子】

廃棄されるフィルムは月平均350kg。固形燃料に再利用されるよう徹底分別。



【紙ごみの分別】

上記のほか、6種類に分別し月に一度回収。新聞用の紙やトイレトーパーに再生。



【二酸化炭素年間排出量推移】

暖房を使用する冬場は高数値。当社のCO2排出量の6割は、灯油・ガソリンなどの化石燃料使用によるもの。





# 株式会社マルエイ六峰社

電話：0154-25-0770 担当：環境管理責任者 皆方 純  
F A X：0154-25-0841 U R L：<http://www.oa-ropposha.co.jp/>

## 我が社での環境への取組

### はじめに ～ 会社（事業）の概要

弊社はリコーグループに属し、オフィスへの事務機器、通信機器、情報機器の最適提案を通じて、地域に根ざした企業を目指し、日々励んでおります。

### 認証取得したきっかけと経緯

マルエイ六峰社はリコーグループの一員として、地域に貢献できる企業をめざし、企業活動での環境負荷削減に取り組んでまいりました。

リコーグループではISO14001を認定取得している実績があり、弊社で取り組むにあたり、2008年5月より事業規模にあった環境省策定の「エコアクション21ガイドライン」に基づいた活動をすすめ、2008年11月に「エコアクション21」認定取得を致しました。

### 取組状況

- 電気使用量削減 ～ 節電シールの表示、未使用時消灯の徹底や空調温度管理。
- 燃料使用量削減 ～ アイドリングストップの徹底、使用量や走行距離のチェック、車内の不要な荷物のチェック(月1回)。「エコドライブのすすめ」を車輻に掲示。
- 廃棄物の削減 ～ 分別の実施、両面コピー・裏紙の利用、再使用・リサイクルしやすい製品を優先購入。
- 水使用量の削減 ～ 節水シールの表示、環境委員が積極的に呼びかけをしています。(朝礼など)
- 環境保全活動 ～ 地域ボランティア活動に参加、環境セミナーを開催。身近な活動では、プルタブ・エコキャップの回収。

### 成果と今後の課題

電気使用量は、未使用時の消灯や室温管理を徹底し、前年比約2割削減できました。  
 燃料使用量は、エコドライブの浸透、低燃費車への入替なども行い、前年比約3割削減と効果が上がっています。  
 廃棄物は、分別が徹底されてきてはいますが、まだ一部間違いもあるので、呼び掛けをするなどして徹底されるようにしています。  
 環境保全活動は、ゴミ拾いのボランティア活動に積極的に参加する人数も増えてきています。  
 キャップの回収も全員で取り組んでいます。  
 これからは、もっと日常業務と直結したエコの取り組みをしていきたいと思っております。

### おわりに

まだまだ、改善すべき点は多々ありますが、ひとつずつ改善していき、より環境に配慮できる企業になるべく、努力してまいります。

品名	分別方法	備考	備考	備考	備考	備考
紙	紙類	紙類	紙類	紙類	紙類	紙類
プラスチック	プラスチック類	プラスチック類	プラスチック類	プラスチック類	プラスチック類	プラスチック類
金属	金属類	金属類	金属類	金属類	金属類	金属類
ガラス	ガラス類	ガラス類	ガラス類	ガラス類	ガラス類	ガラス類
その他	その他	その他	その他	その他	その他	その他

リニューアルを重ねている分別マニュアル



節電を呼び掛けています



釧路湿原クリーンウォークへ



# 片桐企業グループ

電話：011-261-2002 担当：ECO Project 事務局(松本)

FAX：011-261-2012 URL：<http://www.katagiri-g.com/group/eco/>

## グループ企業への水平展開によりノウハウを共有

### はじめに ～ 会社(事業)の概要

平成20年6月、片桐企業グループは、建設機械や仮設機材から通信機器、イベント用品や介護機器、パソコンまで総合的にレンタル業を営む6社からなる企業グループで、札幌のほか道内11地域に拠点をもち、グループ企業及び地方拠点全ての21事業所がエコ活動に参加している。

### 認証取得したきっかけと経緯

グループ内の片桐機械では、2000年に建機レンタル業としては全国でも初めてISO14001の認証を取得しており、ここで得られたノウハウがCO<sub>2</sub>削減の取組マニュアルやCO<sub>2</sub>削減実施事項チェックリスト等に活かされている。そして手法・手段の共有化により全社で取り組む一方、細部については各社の独自性が発揮できるようにした。

### 取組状況

グループ内にCO<sub>2</sub>削減プロジェクト「ECO TRY KATAGIRI」を発足させ、「電気使用量の削減」「燃料使用量の削減」「水使用量の削減」の3項目の取組により、平成19年度比でCO<sub>2</sub>の6%削減という目標値を掲げた。プロジェクトチームには、グループ各企業から工場統括本部長クラスの社員が参加して月1回のペースで集まり、報告・現状分析と改善点の抽出といった、いわゆるPDCAサイクルを回している。

### 成果と今後の課題

1年間の活動の結果、ほぼ全ての事業所でCO<sub>2</sub>削減に成功。最も多い所では約34%のCO<sub>2</sub>排出削減を達成した。グループ全体では平成19年度比12.7%減、約310トンのCO<sub>2</sub>排出量を削減したことになった。フォークリフトなど低燃費・低排出型車種への入れ替えや、雨水を利用して建機を洗車する施設を設けるなどコストがかかったところもあるが、CSR(企業の社会的責任)につながり、また、適正な台数への見直しなど無駄なものが見出せ効率的な仕組みづくりにつながった。社員が競争して取り組むようになったことも大きい。

### おわりに

既に、レンタカーへのエコカーの導入や太陽光発電による安全表示板の自社開発など環境負荷の小さい商品の導入にも積極的に取り組んでおり、今回はできることから始めようとのことから活動してきたが、今後は良い取組を水平展開させグループ内に普及していくとともに、お客様にも提案していくなど、エコの輪の広がりが期待される。



CO<sub>2</sub>削減の取組マニュアル



ECOプロジェクトのメンバー



太陽光発電による安全表示板  
環境負荷の少ない商品を自社開発し、レンタル・販売を行っている

# 鶴雅グループ 株式会社阿寒グランドホテル

電話：0154-67-2531 担当：常務取締役 黒滝 博

F A X：0154-67-2754 E-mail：[kurotaki@tsuruga.com](mailto:kurotaki@tsuruga.com)

## ゼロ・カーボンプロジェクト

### はじめに ～ 会社（事業）の概要

所在地 / 釧路市阿寒町阿寒湖温泉 4 丁目 6 番 10 号  
設立 / 1995 年  
事業内容 (鶴雅 G) / ホテル 6 館、オーベルジュ 1 軒、パン工房 1 軒、甘納豆工房 1 軒  
ISO の認証取得 / 2000 年、9001 品質取得・2005 年、14001 環境取得

### 認証取得したきっかけと経緯

平成 20 年の重油価格の急騰、洞爺湖サミットによる CO<sub>2</sub> 削減の命題を受け、温泉熱利用、ヒートポンプ設置の研究を進めた。同年秋の北海道経済産業局主催の「省エネ」講習会に参加し、改善ポイント等の指導を受け、温泉熱とヒートポンプによる、重油消費量の削減、CO<sub>2</sub> 排出量削減事業を計画。源泉主に新規温泉の導入について打診したところ、摂氏 68 度の源泉が供給可能と分かり、大きなエネルギー量の確保が判明、「平成 20 年度中小企業に対する CO<sub>2</sub> 排出削減量認証事業」採択、NEDO の補助が採択を受ける。

### 取組状況

温泉熱を利用した温熱供給システムと排熱回収ヒートポンプ冷暖房システムによる省エネルギープロジェクトは、新規の高温の温泉を追加調達し、段階的に「給湯」「吸気加温」「浴槽の保温」として熱交換を行い、さらにかけ流しによる排湯を熱回収するヒートポンプにより冷暖房を行う。さらに、夏季はヒートポンプ冷房からの排熱を給湯余熱に利用する。工事施設は、阿寒湖畔の「あかん遊久の里鶴雅」で新規温泉導入とヒートポンプの導入、「あかん鶴雅別荘<sup>ひな</sup>鄙の座」は新規温泉の導入。従来使用の重油ボイラーはバックアップ用として使用。  
省エネ年間目標 / CO<sub>2</sub> 排出削減量 1770 トン、重油削減量 80%削減、省エネ量 699kI

### 成果と今後の課題

平成 21 年 4 月から稼動し、4～7 月までの 2 施設でのモニタリング調査では、

重油 / (鶴雅) 対前年 182kI 83%削減、(鄙<sup>ひな</sup>の座) 対前年 16kI 29%削減

CO<sub>2</sub> の削減 / (鶴雅) 対前年 530 トン 36%削減、(鄙<sup>ひな</sup>の座) 対前年 51 トン 15%削減

となった。その CO<sub>2</sub> の削減量は計 581 トンとなり、うち 367 トンが、北海道初のクレジットとして認証され、北海道電力㈱と売買取引が成立した。今後は、源泉主の財団法人前田一歩園財団と共同で、夏に暖房などのエネルギー量が大きく減少する時季に、温泉を絞り、地中での温泉量の動向を 3 年間調査する。日本は火山大国で温泉が多く、今後温泉熱の熱交換システムによるエネルギー利用を広めたい。「温泉熱及び温泉排熱のエネルギー利用」は CO<sub>2</sub> の新規の排出削減方法論として北電総合設計㈱より申請され国内クレジット認証委員会より認証された。

### おわりに

現在省エネの次の課題だった、電球の LED 化も順次行っている。ホテルの電球は装飾の一つとして配置しているが、その種類は多く、メーカーと共同研究しながら設置している。今回のプロジェクトはグループ全施設の職員に省エネの意識が浸透し、全体的なコスト削減につながるなど、大きな成果をあげた。



今回の導入施設



高温の温泉導入と、コンピューター管理で記録される。



9 台のヒートポンプ エネルギー量にあわせて、必要な台数が稼動する。



# 株式会社満寿屋商店

電話：0155-22-4690 担当：杉山 雅則

F A X：0155-22-4680 U R L：<http://masuyapan.com/>

## 木質ペレット石窯でのエコでおいしいパン・ピザ

### はじめに ～ 会社（事業）の概要

日本で初めて、木質ペレットを燃料としたベーカリー用石窯を実用化しました。現在、4基のペレット石窯を持ち、自社店舗のパン・ピザや出張パン・ピザ教室に活用しています。木質ペレットを燃料にすると、エコで付加価値がつくことを、焼きたてのパンやピザのおいしさで、多くの方に知っていただきたいと考えています。あわせて、地元十勝産小麦パンのPR活動を行っています。

### 取り組むこととなったきっかけと経緯

十勝の主要農産物である小麦を使用したパンづくりを1987年から行っています。十勝で今後の未来も、良質な小麦が収穫されるためには、少しでも環境に配慮したパンづくりができないものかと模索していたところ、十勝の足寄町で木質ペレット工場の導入が進められていました。足寄町木質ペレット研究会と京都の石窯会研究所の協力を得て、2005年6月に日本初のベーカリー向けペレット石窯を開発しました。

### 取組状況

現在、4基のペレット石窯を所有しています。1基目は軽トラックに搭載した移動式の石窯で、地産地消と食育のPRを目的とした出張パン・ピザ教室を2009年は十勝管内の小学校、保育所、町内会など約30回実施しました。その他、ベーカリー店内でのパン・ピザ製造用としての石窯が2基あり、食材も燃料も十勝産にこだわったパン・ピザを販売しております。4基目は、当社が運営するレストランに設置し、石窯で焼いた十勝産食材（肉、魚、野菜など）を十勝産小麦のパンや十勝産ワインとともに提供し、ペレット石窯を使用した新たな食文化の創造に挑戦しています。

### 成果と今後の課題

ペレット石窯の導入により、多くのお客様へ、ペレットで美味しいパン・ピザが焼けるということをPRしました。石窯で焼く商品は大変好評で、当社芽室店ではペレット石窯で焼いたジャーマンピザが2006年の開店から変わらず人気NO1商品です。お客様からは、木質ペレット（原料：からまつ）の香ばしいほのかな風味あるパンとしてよるこばれています。また、2009年5月にオープンした麦音店では、敷地内に麦畑がある店で、同じく4段式のペレット石窯を導入し、店舗全体で地産地消とエコを表現しています。この取組が評価され帯広市まちづくりデザイン賞、第3回いってみたい商店街&お店 北海道表彰のお店部門大賞に選ばれました。今後の課題として、ペレット石窯の改良と普及を検討しています。業務用としての扱いやすさを考慮した細部の改良を続けていきたいと考えています。

### おわりに

ペレット石窯は、地域資源を有効に活用するという志のもと十勝の様々な分野の専門家の協力を得て、つくられました。北海道ならではの産消協働の取組から付加価値の高い商品を今後も開発していきたいと考えています。



軽トラック搭載の移動式石窯



保育所での出張ピザ教室



石窯創作料理レストラン店内



# 有限会社ラッキーピエログループ

URL: <http://www.luckypierrot.jp/eco/>

## はじめに ~ 会社(事業)の概要

所在地 函館市昭和2丁目35-12  
有限会社 ラッキーピエログループ  
代表者職氏名 代表取締役社長 王 一郎

## 取組状況

ラッキーピエロ(ハンバーガー&カレーレストラン)全14店舗とカリナリー(工場)で発生する、生ごみ・廃油・空き缶等の再資源化を行い、廃棄物等の処分量を40%削減しています。

また、マイ容器・マイ箸の持参を奨励する「MYMY 運動」を実施、レジ袋削減や包装の簡易化による削減を行い、容器・ごみ等の発生抑制に取り組んでいます。

環境に配慮した取組として、その他次の様な取組を行っています。

- 1 環境に配慮した商品(エコ商品)の購入  
(ナプキン・おしぼり・ツール・ちらし類・紙袋・名刺・トイレットペーパー・ペーパータオル・コピー用紙等)
- 2 清掃活動(地域の美化運動)  
湯川海岸(年1回)、上磯海岸(年1回)五稜郭公園周辺(年2回)、各店舗周辺広範囲清掃(毎月1日)
- 3 スタッフの「環境に優しい勉強会」  
目的:スタッフの職場、家庭での省エネ、ごみ分別徹底  
目的:ごみ分別の実践講座、省エネ講座、省エネ・ごみ分別資料の配付、読み合わせ
- 4 環境フォーラムの実施(2年に1回)
- 5 植樹活動  
2006年から10年計画でラッキーピエロ森づくりの植樹ボランティア活動を行っています。

## 成果と今後の課題

生ごみ30%、缶等金属5%、PETとビン2%、ダンボール3%、廃油の再資源化  
レジ袋削減、包装の簡易化による容器、ごみ等の発生抑制

【参考】北海道ゼロ・エミ大賞受賞・容器3R推進環境大臣賞受賞・函館市より「函館市環境にやさしいお店」認定、函館の街をきれいにする市民運動協議会より「感謝状」受賞

## おわりに

上記活動を今後も積極的に継続することで、当社の掲げる「もっともっとやさしい宣言」を実現し、容器やその他のごみの発生抑制を推進していきます。



2005.4.26 五稜郭公園前付近清掃ボランティア



上磯海岸清掃ボランティア



大野の森きじひき高原植樹にて



# 北海道札幌藻岩高等学校

電話：011-571-7811 担当：梅沢 謙

：011-571-7814

：<http://www.moiwa-h.sapporo-c.ed.jp/>

## 北海道札幌藻岩高等学校の環境教育

### はじめに

本校は、藻岩山と豊平川に囲まれた自然豊かな地域に、昭和48年に開校された。「文武両道」をモットーに、生徒たちは学習や部活動に若者らしい熱気あふれるパワーを発揮している。3年間の学びを通し、自主自律の精神を育み、毎年100名を超える生徒たちが国公立大学へ合格し、生徒たちのほとんどが上級学校へ進んでいる。

### 認証取得したきっかけと経緯

「地球環境にやさしい生徒は、人間にもやさしくできる」という考え方のもとで環境教育を実践し、文武両道の校風に合致する生徒に育てている。本校でできることから始めていき、生徒の主体的な活動として定着させながら、思いやりのある豊かな心や、論理的思考力・表現力をはぐむことを目標として、平成18年度より取組を開始し、平成19年9月に北海道の学校としては第1号となる、HESステップ1規格を認証取得した。

### 取組状況

- 1 平成18年度から独立行政法人科学技術振興機構(JST)のSPP事業により、1年生全員が北海道大学で64の講座に分かれ「環境を科学する」をテーマに、実験、まとめ、発表を行っている。
- 2 3年生生物受講生徒による豊平川さけ科学館との授業連携。
- 3 3Rをモットーにした環境学校祭の開催(エコレーの使用や廃たぐら油の回収によるBDFの生成、札幌市環境局のエコライフレポートを実施、使用した物を回収・保管し、次年度の学校祭に活用する3R)。
- 4 自作の環境学習ノートを用いた札幌市南区の石狩川水系水質調査(32カ所)。
- 5 部活動での実践(フィールドサイエンス部と科学部、平成19年度第31回全国高等学校総合文化祭島根大会に参加、平成20、21年度高文連北海道理科研究発表大会生物部門及び科学部門で総合賞(最高賞)受賞)
- 6 アゲハ蝶の来るピオトープ作りと維持管理、清掃ボランティア活動などを展開している。

### 成果と今後の課題

外部組織や地域との関わりを持ち、環境意識の高い人材の輩出・環境関係分野への進学者の増加・高大連携の深まり・電気使用量などの削減といった成果を上げている。また、平成21年度は「札幌市環境賞」、「地球温暖化防止活動環境大臣表彰」を受賞し、生徒たちの励みとなった。

### おわりに

地球温暖化防止対策に対する各国の対応状況は、COP15にみられるように、極めて難しいものがある。しかし、豊かな人生を送るための基盤を構築する高校段階において、「地球環境にやさしい生徒は、人間にもやさしくできる」という考えのもとに、「持続可能な社会の実現」を目指し、環境教育を着実に実践・推進していきたい。



ピオトープボランティア活動



SPP学習(北大での実験風景)



環境学校祭(廃たぐら油の回収)





# 株式会社札幌メディカルラボ

電話：011-683-8681 担当：ISO 統括管理責任者 渋谷 俊政

F A X：011-695-1712 U R L：<http://www.medical-1081.com/>

E-mail：[shibuya@medical-1081.com](mailto:shibuya@medical-1081.com)

## ISO14001・ISO9001 認証取得歯科技工所としての取組と今後の課題について

### はじめに ～ 会社（事業）の概要

弊社は昭和 60 年に設立された歯科補綴物（差し歯、入れ歯など）を製作している歯科技工所です。関連グループとして5つの歯科医院があり、札幌市手稲区にある弊社と併設された本院の他に札幌市北区、岩見沢、夕張、寿都の5つの医院とグループ化をしており、総合歯科医療サービスグループとして歯科医療を通じての社会貢献を目指しています。

### 認証取得したきっかけと経緯

グループ全体の職員数が60名を越え、歯科技工物の品質管理、廃棄物の管理などにおける統一した規格が必要と感じたことと、事業所として環境負荷軽減のためにできることがあるのではないかと感じたことがきっかけで2006年6月にISO14001:2004(環境マネジメントシステム)とISO9001:2000(品質マネジメントシステム)を北海道の歯科技工所として初めて認証取得しました。また2009年6月の更新審査においてISO14001:2004とISO9001:2008を更新取得しました。

### 取組状況

最初に取り組んだのは、まずは自分達の足元からということで5S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)です。社内の環境が健全でなければ環境保全も品質管理も継続的に改善することはできないと考えたからです。5R運動(リフューズ・リデュース・リユース・リペア・リサイクル)にも積極的に取り組み、無駄使いを減らすための委員会の設立や、材料仕入先の再検討なども行いました。また社内間印刷文書を減らすため社内LANを構築し紙媒体から電子化への移行も図りました。そして日常業務において日々発生している医療廃棄物、産業廃棄物、一般ごみについては適切に分別する意識を高めるためのルール作りやマニフェスト通りに適切に処分されているか現地見学も行いました。現在は様々な学会や講演会を通じて取組状況を発表し、歯科業界における環境保全についての啓発活動を歯科関係者に留まらず、一般市民の方にも広める活動を積極的に進めています。

### 成果と今後の課題

一番の成果は経営層も含めた職員一人一人の環境と品質に関する意識が変わったということです。幸いにも弊社の審査を担当していただいている審査認証機関は「真に経営に役立つISO」を提唱されており、文書類だけに焦点を当てた審査ではなかったことも職員の意識改革には大きく影響したと思います。紙・ゴミ・電気の節減も環境負荷の軽減には重要であり真摯に取り組まなければなりません。それらを意識しすぎるあまり、日常の業務に支障を来すようであれば、マネジメントシステムの効果は得られません。自社の業績も上げ、職員に過度な負担をかけず、その中で環境保全にどのように取り組んでいけるかが今後の課題となっています。

### おわりに

環境マネジメントシステムや品質マネジメントシステムは手段の一つと考えます。自社でそれらを管理、実践できるのであればそれに越したことはありません。しかしながら日々の日常業務に追われているのが現状の我々にとっては年に1度行なわれる第三者機関による審査において指摘、指導を受けることが自社のマネジメントシステムを継続的に見直す良い機会となっています。



弊社と本院の外観



技工作業室



完成した歯科技工物



# 美唄市農業協同組合

電話：0126-63-0526 担当：営農販売部次長 西川 賢

F A X：0126-68-8399 U R L：<http://www.ja-bibai.or.jp/>

## 米穀雪零温貯蔵施設「雪蔵工房」

### はじめに ～ 会社（事業）の概要

JAびばいは北海道空知支庁管内の中央に位置し、石狩川沿いに開けた道央圏の穀倉地帯で、営農は水稻作主体に麦や大豆などを組み込んだ複合農業経営が行われています。

自然の味・大地の力を皆様にお贈りすることをスローガンに、どなたでもご利用いただける、地域に愛されるJAとして「ふれあい」を大切にしながら、事業運営を行っています。

### 取り組むこととなったきっかけと経緯

年間積雪が8mにも及ぶ豪雪地帯である当地域において、雪は除排雪に多額の費用とエネルギーを要するやっかいものでしたが、「雪冷熱利用に依る米の貯蔵保管品質保持効果」に巡り会い、この雪を有効活用するため小規模な試験研究室を作り大型貯蔵施設建設の実現に向け試験を続け、その試験結果を基に市街地倉庫のスクラップ&ビルドとあわせ平成12年に建設に至っております。

### 取組状況

米穀雪零温貯蔵施設「雪蔵工房」は、3,600tの雪を貯蔵する貯雪室と6,000tの玄米を貯蔵する貯蔵室、及び冷熱を輸送する冷風循環系とからなっています。

玄米貯蔵室では外部からの侵入熱、玄米の呼吸熱等により冷風は暖められ6℃まで昇温され、その温風は貯雪室へ送られ、雪の表面をすべり0℃近くまで冷やされ吸気ピットへ流れ込みます。

循環系は温度コントロールを行うため貯雪室と貯蔵室を結ぶダクトの中間にバイパスを持ち、ここで貯雪室へ向かう温風と混合機へ向かう温風とに分流させ、混合機ではこの温風と貯雪室から吸引された0℃の空気をミキシングさせ再び5℃の空気として貯蔵室へ送風することになります。

### 成果と今後の課題

お米は次世代の種子として生命力を持っており、その生命力を維持するため呼吸し僅かずつ酸化、消耗し続けることから低温にするほど貯蔵中の品質劣化も抑えられ、新米に近い食味が保持出来ます。

また、電力消費量（料金ベース）は機械冷却と比較し約1/3と省エネ・省資源型の玄米貯蔵施設となっています。



米穀雪零温貯蔵施設「雪蔵工房」外観



施設概要図



6,000tの玄米を貯蔵する貯蔵室



3,600tの雪を貯蔵する貯雪室



# 株式会社環境整備公社

電話：0146-42-1145 担当:主任 半澤 豊

F A X：0146-42-3638 E-Mail：[kankyouseibi@zpost.plala.or.jp](mailto:kankyouseibi@zpost.plala.or.jp)

## H E S に取り組んでみて

### はじめに ～ 会社（事業）の概要

一般廃棄物運搬処理業務をはじめ、建築物及び公共施設の維持管理業務・道路維持業務等を主な業務としております。その他にも、地元の様々なニーズに対応できる会社として、関連業務の実施や、それらに伴う取扱資格者の育成を目指し、頑張っています。

### 認証取得したきっかけと経緯

世間ではエコに対する取組が盛んになり、我が社としても何かに取り組むべきと考えました。その時にHESというものを知り調べました。HESは環境への配慮をしつつ、職務における利用資源の削減、更には職員1人1人の意識改革にも繋がると考え取組を始めました。

### 取組状況

- 1 使用燃料(ガソリン・軽油)の削減
- 2 使用水量の削減
- 3 使用電力の削減
- 4 グリーン購入の推進
- 5 近隣公園のボランティア清掃の実施

以上5項目を環境改善活動項目として取り組んでいます。中でも使用量削減項目については、毎月の使用量を把握しつつ、職員全員がどうすれば経費の削減に繋がるかという意識改革にも役立っています。また、会社内に自社製作ポスターを掲示する等、社員が環境活動に対する意識を常に持てるよう明るい雰囲気作りにも気を使い、無駄な消費の削減に取り組んでいます。また、近隣公園のボランティア清掃については、曜日を決めて週1回行っており、町の中の一つの会社として地元への貢献を目指しています。

### 成果と今後の課題

取組初年度という事もあり、年間目標の設定が手探りでした。その中で、約一年取り組んでみて、数値的な目標の達成は厳しいものでしたが、職員一人一人の環境に対する意識の向上に繋がっています。引き続き来年度以降も取組を続け、環境への配慮は勿論、会社の業績にも繋がる活動をしていきたいと思えます。

### おわりに

会社発展のためには、環境と経済の両立が必要不可欠と考えます。地元のニーズに応える中で、経済的・社会的・環境的なバランスのとれた企業経営を目指すためには、環境への配慮を十分に考慮し、業務の質を維持した上での経費の削減は必須となってきています。HESの取組を活用し、地元との調和も考えながらこれからも頑張っていきます。



会社事務所外観



会社シンボルマーク



社内掲示用ポスター



# 道央衛生株式会社

電話：011-383-9080 担当：環境管理責任者 佐々木 雅之  
F A X：011-385-2838 E-mail：[furi-1@douou-eisei.ecnet.jp](mailto:furi-1@douou-eisei.ecnet.jp)

会社情報の詳細は[社団法人 北海道産業廃棄物協会](#)ホームページの会員情報にて公開しています。

## 環境改善活動の輪を広げよう ～ H E S に取り組んで ～

### はじめに ～ 会社（事業）の概要

1980年(昭和55年)創業の弊社は、江別市のし尿収集運搬、浄化槽設置、維持管理、清掃業務を初業とし、汚水処理施設、下水道管、排水管、また、浄水場施設等の高圧洗浄業務をはじめ、産業廃棄物収集運搬業務、江別市の一般廃棄物収集運搬業務、給排水設備工事等を通し地域の生活環境保全に努めております。H E S 環境改善活動を継続することにより従業員の環境改善意識をより高め、この北海道の自然を次世代に引き継いでいきます。

### 認証取得したきっかけと経緯

創業30年の節目を迎える弊社は、清掃業・廃棄物収集運搬業・給排水設備工事業という生活環境関連事業を続ける中でコンプライアンス、業務改善、コスト削減等の面でEMS(環境マネジメントシステム)の必要性を感じ検討していました。環境省の「産業廃棄物処理業者の優良性の判断に係る評価制度」の施行もあり、中小企業のEMSを後押ししている「北海道環境マネジメントシステムスタンダード(H E S)」が事業規模、営業範囲、認証取得・維持費用等の面で最適と判断し、H E S の産業廃棄物処理業者用システム規格に取り組みました。



道路に面する倉庫には社名とともに「H E S」認証取得をアピール

### 取組状況

スタートは経費削減として社内で行っていた事項をとりまとめ、数字にして表すという基本的なことから始めたため、独自の取組といったものではありませんが、手順を決めて取り組むことで、思っていた以上の効果が表れています。また、家庭での環境改善をすすめるため、「北海道環境宣言」を社内で紹介し、自由参加ではありますが、エコドライブ実践のステッカーを従業員の車にも貼るなどして、普段の生活でも環境にやさしい行動を取れるよう活動を広げていきます。

取組項目	2009年度目標
電力使用量の削減	2%削減
灯油使用量の削減	4%削減
自動車燃料使用量の削減	6%削減
廃棄物排出量の削減	1%削減
運搬した産廃のリサイクル率	61.5%以上
水使用量の削減	4%削減
グリーン購入率向上	80.0%以上

<削減目標の基準年は2007年度>



通勤に使用する私有車に会社のマークとエコドライブに取り組むコピーの入ったステッカーを貼り自覚を持ってハンドルを握ります

### 成果と今後の課題

2008年度実績は取組の初年度ということもあり、電力、灯油、水など目標を大きく上回る達成率でした。しかし、自動車燃料の削減については、産業廃棄物の収集運搬で毎日の運搬距離が200km以上になる業務が年度後半から加わり、最終的に目標を5%オーバーしてしまいました。二酸化炭素排出量につきましては、基準年337,468kg - CO<sub>2</sub> に対し、初年度321,104kg - CO<sub>2</sub> と4.8%の削減となりました。弊社の環境負荷要因の80%以上は自動車燃料が占めておりますので、この削減に重点を置くとともに社内の業務の見直しにもPDCAの手法が根付いていくよう環境管理チームが先頭となり活動を継続していきます。

H E S 認証取得によりエコアクション21相互認証取得  
産業廃棄物処理業者の優良性の判断に係る評価制度適合  
北海道グリーン・ビズ認定制度登録

### おわりに

「何も考えずにまずは始めてみませんか。」H E S 推進機構担当者の方に背中を押され取り組んだEMS。たくさんのアドバイスと構築のための豊富なサンプルに助けられ、認証をいただくことができました。「H E S」は北海道の企業にとってたいへん取り組みやすいEMSだと感じています。



廃棄物収集運搬車・清掃車





# 苫小牧清掃企業組合

電話:0144-51-6556 担当:管理部部長 畑中 洋一  
F A X:0144-57-8180 U R L: <http://www.tomasei.net/>

## 環境総合企業への取組

### はじめに ~ 会社(事業)の概要

昭和43年9月、苫小牧市し尿汲取り業務委託により中小企業等共同組合法に基づき設立しました。その後浄化槽清掃・保守点検、一般廃棄物の収集・運搬、産業廃棄物の収集運搬・処理、特別管理産業廃棄物収集運搬、更に「環境」と「エネルギー」をキーワードとした土木・建築工事等への事業展開を図っております。また有機・無機汚泥の処理施設(リサイクルプラント)による適正処理とリサイクル活動を通して環境総合企業への取組を積極的に進めております。

### 認証取得したきっかけと経緯

- 1 環境総合企業として環境負荷低減に寄与
- 2 業務管理の手順、仕組みのひとつとして採用
- 3 環境総合企業としてイメージアップの手段
- 4 新規市場・顧客開拓へのコンセプト 等

### 取組状況

- 1 適合、認定、協賛  
産業廃棄物処理業者適合「評価基準適合」 北海道グリーンピズ認定 キッズ ISO14001 プログラム事業協賛
- 2 その他の取組  
BDF(バイオディーゼル燃料)の製造共同参画と実車利用 上水水源河川の水を汚染から守る会参画、活動  
上質古紙リサイクル事業参画 ペットボトルキャップの回収と寄贈 職域・海岸・通勤経路等の清掃活動等  
リサイクル品(無機汚泥処理後の覆土材:エコ砂)の製品化と認定申請 太陽光発電システムの導入検討(シミュレーション)  
有機汚泥(脱水ケーキ)の肥料製造の原料化 有価物の選別と再資源化等
- 3 環境目標(主な目標)  
グリーン購入促進 可燃ゴミの有効利用 環境対応車の導入検討(入替え)等

### 成果と今後の課題

- 1 取組結果  
ISO14001 のマネジメントシステムの定着と業務への展開をしたことにより、業務の進め方の原則や基準が整備され、事業継続において中心的な位置づけとなり得る(継続中)ことが最大の成果と認識しています。取組の具体的な成果については、計画・目標ともにホームページに記載し公表しています。
- 2 今後の課題  
持続可能な経済社会を実現するためには環境問題(温暖化、エネルギー、資源枯渇等)の領域はますます拡大されております。ISO 認証制度に限らず様々な環境マネジメントシステムを活用した環境保全活動は、企業・組織にとって重要な事業活動のひとつとして捉えていかなければなりません。ISO14001 の認証企業として、登録・認証制度の信頼性をいかに高めていけば、企業側として襟を正し努力して行くことが求められているものと考えています。

### おわりに

「環境産業の Next Stage へ」 「真に地球にやさしいことは何か」を追求し、単なるリサイクル商品の開発ではなく、資源の利用方法から、資源の本来あるべき姿までを視野に入れ、使用済みの資源を、別の商品形態ではなく、あくまでも「もとの姿へ還元する」ことで、トータルエネルギー消費の抑制につなげていきます。もう一度(Re・リ)その資源を利用する循環の輪(Cycle・サイクル)を提唱します。



苫小牧市錦多峰川流域において「水を汚染から守る会」による清掃活動に参加。流域における不法投棄が多く、上水河川の汚染が懸念されることから市民と活動参画。



地元の工業高校に廃食油を提供し実習により製造した BDF を当組合で実車利用。その性能やデータを提供し、将来の布石として共同でシミュレーションしています。



北海道グリーンピズに認定  
北海道キッズ ISO に参画  
産廃収運・特管収運・産廃処分業で  
優良評価基準に適合しました。特管は  
道内第 1 号



# 株式会社ネオリサイクル

電話：0164-43-5401 担当：専務取締役 小川 岳洋

F A X：0164-43-9144 U R L：<http://www17.ocn.ne.jp/~neo-net/>

## ネオリサイクルの環境保全活動への取組

### はじめに ～ 会社（事業）の概要

- 産業廃棄物処分業（コンクリート・アスファルト・廃プラ・紙・繊維・木くず・石膏ボード・蛍光管・金属・その他）
- 産業廃棄物収集運搬業（北海道知事許可・札幌市許可・旭川市許可）
- 一般廃棄物収集運搬業（留萌市）
- 解体業（北海道全域）
- 古物商（金属類の買取）

### 認証取得したきっかけと経緯

当社は、産業廃棄物処分業を経営の柱とし、基本的に「埋めない・燃やさない」という経営方針で取り組んでいました。リサイクルを最優先と考え、環境負荷を抑えたりサイクル製品の製造を構築し社会に貢献することが責務と考え、又「産業廃棄物処理業者の優良性の判断に係る評価制度」の適合基準にも環境マネジメントシステムの取得認証が条件であることも考え、2005年より環境活動に取り組み、同年「エコアクション 21」を取得しました。

### 取組状況

- 1 全ての事業活動において、地域の環境保全に寄与できるように努めています。
- 2 資源・エネルギーの消費や廃棄物の排出状況等をチェックし、環境への負荷を認識し、省資源、省エネルギー、リサイクル、そしてグリーン購入に努めています。
- 3 環境関連の諸法規定及び当社が同意した各種協定を遵守しています。
- 4 環境保全に関する目的・目標を設定し、取組結果を見直すことにより、継続的な環境改善に取り組んでいます。
- 5 環境活動レポートを公表する等、社内外に対して環境保全に関する情報の提供を行い、また、啓発、教育活動を推進するとともに、地域社会への一員として地域及び社会への貢献活動の推進に努めます。

### 成果と今後の課題

「エコアクション 21」を取得したことにより、社員全体の環境を守らなければならないという意識が向上したことで、無理・無駄を最小限にすることが、環境への取組の基本なので、コスト削減にも寄与し、会社の経営状態もよくなりました。又 2006 年には「産業廃棄物処理業者の優良性の判断に係る評価制度」の適合基準にも見事合格し、社の営業強化に強く役立っています。

今後の課題としては、取得認証より 5 年目を向かえ、取組内容に変化を加え、環境保全活動により一層の努力が必要と考えております。

### おわりに

今後もより一層環境を守るために、いろいろな努力をし、北海道に貢献できる会社を目指します。



北海道グリーン・ビズへの取組掲示板の設置



水銀の環境破壊を防ぐために廃蛍光管処理機の導入



本社事務所にて薪ストーブの設置